第六

毗來臣材集

秋下

へ5
1257
6

へ5
1257
6

八月　年渤確類史ニ曰仲秋ノ日月壽星ヲ合シテ仲間ヲ建ツ其食吉樂志ニ曰周ノ綱ノ時物皆綱編ス

○葉月ニハ此月ノ肅殺ノ氣ニ一百丹葉ヲ發ス故ニ名ク葉月ト云今異ニ一ツ葉月ト稱シテ增紫月・秋風月・月見月・仲秋・蘭月・壯月・中律・雁月・末の葉ヤウ〳〵色ツク

四名葉月ト名ク云ハル南呂ハ八月の律ナリ

京都帝國大學圖書

八月中日ヨリ名花ヤウ〳〵ノ開ク　古　末葉

八月中寒ノ秋ノ世日也　許十

八朔　南の方の花ひ・絵ノ器

八月中日今年の雪反甫色　春白

八月の物ヲ葉ヲ通ル新ノ形　冬美

繪行燈 [増] 後撰後の帝[illegible]

運[illegible]

[illegible]

[illegible] [公] 今八月 [illegible]

絵月 [illegible] 芭蕉

[illegible] 峰風

絵月 [illegible] 清永

[illegible] 東岱

絵月 [illegible] 一龍

二日月 二日月 [illegible] 桂象

[illegible] 葉月

[illegible] 二日月 [illegible]

三日月 [illegible] 三日の月 [illegible] 柳樹

[illegible] 三日の月 [illegible] 東英

初月 初月を踏て [illegible] 史楽

初月 [illegible] 波路

[illegible] 稲満

[illegible] 一龍

竹ノ春　竹譜ニ曰竹八月ニ実ヲ結ブ

春の仲八日ゝゝよ志ぐれの春　甘蔗

人ゝまゝ蟬居野や竹の春　テハ素山

蛙ゝ春ゝ竹ゝ竹のさゝ、ハ　有器

笑ゝ春ゝ竹ゝ竹の春　上サ五美

色ゝの春ゝ竹ゝ竹の春　一龍

白露ノ節　八月の節

天中ノ節　八月一日ヨリ七日ニ至ル生業の方の木を伐リテ家ヨ焼テ八月一日天中ニ至テ赤ハ白舌ハ黄ニ成ル

押ヘテ疫病ヲ除ク

拾世

秋四十三

水村祭　一日二日ヨリ堺の大ゝ

・堺天神祭　三日四日ヨリ七日ニ至ル

北野祭　四日ヨリ七日ニ至ル八月の日菱ヲ系ヒ枇杷を取テ神ヨ供セリ

白髪ノ閑帳　五日山門の僧ヨリテ

敦賀祭　常陸大明神敦賀ニ行ク祭神

仲哀天皇後ノ八月十日ニ云ク

司召　公十日定考ヨリ四月擬階の奏の人ヲ撰出テ

定ヲ行ヒ京官の三位ヨ上の人ヲ以テ叙位ヲ撰

ヲ業尊ヲ玉ふ世ゝ

佳のきめ〳〵云ヘリ

何ゝ自ら自ら玉の玉ゝ　不田

司召　鄙ヨリ出ル家　雪弱

春命ヨ云ヒ玉ヘ　司　召　イツ　吾友

世の敬をさまたげの生一法ゝ目めー　花洞

ゝゝゝゝのちのゝよりのまゝ　合

いけゝを放つ石清水・放生会十五日

元亀天皇書老四年九月吳服より吉國を奪ちんと

敬せー　放生会を行ふ八幡宮の神力にて敬を返すのち戦ふ多くの人を

園まで出るゝ行ゝと云ゝ世自他云放生川ゝて

行放生四ゝ放生川ゝ計八幡より行ゝ

人立ゝいゝゝゝゝゝゝゝ橋の上　トサ　花月

さゝゝゝ方を樹生放ー　ゝ　庭花

ゝゝゝゝゝゝゝを放つ表の中　比喜

放生会国白八幡より里　トサ　山見

肩生ゝ橋のよりゝ放生会ゝ　玉清

ゝゝ義より風ゝ書写ゝ放生会　不老

鉢のゝゝゝ文ゝ乗ゝ放生会ゝゝ雅

ゝゝゝゝ国ー新ゝ放生会　トモ　梅古

ゝゝ生のゝゝゝゝゝゝゝ生会　張義子

阿野津八幡祭　十五日　志賀八幡祭　同日近江

豊浦祭　同日長門豊浦　宇佐祭　同日

箱崎祭　同日筑前箱崎

名月

名高き月・あかしの月・芋名月・端正月・秋月・月のさやか・さやけき・小望月十四日を云十五日夜を望月と云なり・十六夜の月・立待の月十七夜なり・居待月十八夜・ふしまち月十九夜・弓張月・月弓の事上弦下弦の不同を弓といふなり・月のこほり・月の舟あまり半月をいふなり・月のかほを満月をいふなり・月の兎・玉兎異名なり月中に八足の兎をとれり・月の桂異名なり・玉蟾月中に三足の蛙ありと云り・常娥・嫦娥あまり仙女の名なり仙薬をぬすみて月中にのがれし故のなりとも月の名になる・桂男異劉といふ事仙人月中に行て是を桂男と云り・月の鼠 或人穴に入てくらこのよ草の根をはみて里とくまよ走り白鼠黒鼠いりて其の草の根をくひちめりと云てあまりてつるる婆娑世界を月日のうつりかはりて死期をいそぐにたとへたり ちのきたとへをとり

・月の夜 三日月なとのつききのこのちなるをとり

・月の雪 月の光りの地に白き雪のやうなる歟云り

・廿日亥中・廿三夜の真夜中あまり月の出る時分なり

・月の都 月宮殿の事也・星月夜・夕月夜・盃の光

・夕附日 双星・暁月夜

名月や鐘もきこえの霧晴り　甘泉

名月や鯉はねる池の水静か　龍将

明月や世をのがれし酒の味　下毛 山古

名月や端居の夜も更けにけり　会津 條友

名月や鶴なきしる空の湿り、　露考

名月や居なからしめ落ちし露、　柏株

名月や家は居家のうちに　新　七夕 双岳

名月やあけ渡す白ふ波の色、　素月

名月や朝代の[illegible]変　天五　行
名月や橋とのらこゆる角　擔　上毛　雄逸
名月や限よ寄つ[illegible]裏の山、　心星

待宵

まつ宵や[illegible]風[illegible]よ寄り　陳良
待宵の雨を[illegible]付[illegible]きり　山古

今日の月

[illegible]の月[illegible]と[illegible]の[illegible]の[illegible]　芳叶
旅宿を川岸へ[illegible]ふの月　亮稚

月今宵

大川を眺のあ[illegible]く[illegible]ふの月　トサ　三郎
[illegible]表を月よ[illegible]き[illegible]よ[illegible]　金三　霧秀

月見

[illegible]伝て[illegible]戸も[illegible]月と宵　[illegible]白
月[illegible]る婦[illegible]や[illegible]る衣　連里子
大[illegible]や[illegible]月[illegible]の[illegible]望　[illegible]白
[illegible]き[illegible]の[illegible]　三雪　龍像

月ノ雲

[illegible]く[illegible]や[illegible]月の雲　拙滅
[illegible]月の雲　山子
[illegible]の[illegible]　芳叶

十六本

月の雨

海[illegible]月の[illegible]　トサ　三郎
[illegible]の[illegible]月の[illegible]　[illegible]

月の面くもりなき夜 隆永卿

立ちまさりよいさらふ明りこの葉 隆風

いさよひや萱野の露を根岡寺に ムツ 石槻

十六夜の影さしそめ雲のうへ ムサレ 雪朔

いさよひや雲の雲を乗 蕃丶 春賀

居待月

懈るうへ二時ばかりまちつる居待月 〃 淇子史 素仁

川ぶねよりうち休めて居待月 嵐風

秋の月

ちらちらきくうへ立出て秋の月 峰裁

富士はうつくしの秋の月 研月

行くまく惜しむ秋の月 十條

萱大臣祭

十六日五條坊門町の西より西に拝殿といふ長屋 十條

[年行] 十六日ハ伝法勅会牧の庄年貢の上米蔵院の米忘れ給ふ八十二日ハ南都より

出仕行くに出るを出発ハ上ハ出るの解文を裏書きの果て公記

日本法華ハ出馬を給ハる所の中一つ宿をとりて出あはせて

一年ハ一の出るを八引分の供ハ法華ハ院東ハ

ハ法華ハ十七日八甲斐国桂坂の出る五十疋

廿日ハ出ハ少壁の出る四十疋 廿疋五十疋年ハ

廿三日伝法の室月廿疋八日ハ上壁五十疋

駒牽

駒牽の夜ハ優長安良の宮 不由

駒牽や冥の清めの明て休 嵐風

駒迎　日の部の所の川辺に駒を放ちて人を知る人を寄せて駒を捕ること

彼岸　手織結ぶ為めて彼岸詣の事　弓ん

御霊祭　十八日八坂の祭り　・業名祭　十八日いせ

秋分の節　八月の中なり

死活杖の祭　僧　狂然の事よりこの社にて行う昔年毎年八月に寺にて行う毎

新秋刑法をさだめ五刑を行う　刑罰の日

追善よりつまりと　職の注より行う　生死罪の者の

罪をはらいまつる事や　死活杖　麦寄

まつる度科　死活杖、　素心

蛇穴に入　月　仲秋の月蟄虫戸を閉じて蟄を収め蟄虫戸を閉じて伝毒のこれのんに出て秋の彼岸に入ると云

蛇も穴に秋ぶんに穴に入　虫弱

蛇穴に入るまろ歩き旅に出　立虫

蛇入り穴に通る通る　出毒

蛇のうおりと蛇あり穴に入る、　花調

穴に入る蛇中蛙も見ぬ世　ヒダチ　農岳

虫の穴ちとの去年ひら蛇の入る　下毛　来要

釋奠　上丁日孔子釋奠十指を　まつり

秋社　秋分の前後のちのき戊の日　五穀の神たるつる日あり　五穀の土を封じて社とし候を建て禹貢の注より

龍田姫　貞徳云秋の色を染出す造化の神と云り

日うらの山よ紅葉せよ　神姫也　イセ　梅笠

雲のくれハ紫ひろしなりこひめ　双岳

秋の宮　中宮のうつり　三つ巻ものがたり

初紅葉　ちふ宮の紅葉し初る葉　立字

袖の色ハ雲ゝ初る紫　出像

神姫也　松よりの神ゝ　以見

芙蓉　風　芙蓉木　芙蓉ゝ　本草の名ハ八月花ひらく　又夜日花咲を芙蓉と名る只荷のゝ事

宮ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　芙蓉代　ナコヤ　破雨

二の花の記念ゝ　秋夕　素山

紅葉の色ハ　ゝ　嗤風

姫ゝ　雨の芙蓉の　紅葉　ムカシ　洒家

芙蓉　ゝ　上毛　牧雄

芙蓉　ゝ　イツ　重義

雨ゝ　ゝ　芙蓉ゝ　エチコ　陽子

木犀花　木犀の香の云やり　ゝ　埼庵代　出像

未摩やさまのうち洗ひ水の白し　ミナノ　蕉堂

咲よりめうち未摩の白しれ　ムサシ　茅里

蒲萄

家もその色よりやるはるか　トサ　多佳

塀内よりやるる枯の蒲萄か　ムツ　仲鳴

下葉のうち秋の色うかふかう　巣欣

紫葡　エビカツラ　和三　葉ぶりうまれて実をむすびて又一種ぶどうと
いふものあり林檎の実ほどなる葉色実ふりうま
園くれ紫ふくる

秋ふのくこころる時枝やえびかつら　ムサシ　岱月

法る把る葉の赤きれ色えびかつら　巣心

東

葉の法るかるる熟し実の形　ヒタ　白

実ふくるふくる毒むつめか　サガミ　影和

露草　仙　暗沢等つき叶と和歌月等ハ家叶多り万の色ハ
新日新よ咲を先色を月新ふ月等ハ八月等ハ

露叶や月新秋ふ　ヒタ　古居嶺

宇治の花園

花園や宇治を芳の出ふる　雪絢

花野　咲のるる出るるかしの色か　石見　三子

ふるる日秋鉢よ出ふ和出の原　テハ　雪山

四よ多鉢ふ治ふ色か　トサ　庵色

雲岳

仙月

旅衣のら旅の袂越元

蔦

連程る

つゝのつら

嶋の苔彩のえてそりのまとひ哉

芭

尋氏

布さらしあらまほしきもの

香芸

雨をう者ゆ袂すゝき

沙里鈎の居るそけ刈〜芭蕉の

嵯峨

風情の多きまゝ

白

樹の根よ苔のそつよきまゝ

雲川

ひとゝよの春を惜ふ芭蕉哉

月雄

通ふの行ゝ花あちまち見まゝ

酒象

度者ゆ一日ゝ〜ゝ〜ゝ知ぐ

郁〜

種ゝ〜ゝ方角ゝ〜ゝ風のゝ

苔坑

ゝ〜ゝ孫通ゝ岸の尾花

蒙正

宿ゝ居ゝ〜ゝ〜ゝ尾ゝ

山

尾花

刈萱ゝ壁ゝ〜ゝ〜ゝ尾のこと

万枝子

荷萱

雅麦ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ

乗山

刈萱のちしゆ〜や沖よりうつる雲　呂心

この草や一名ハいつよ秋の色　トサ　花月

花紫　[蘭]三月開花しこの花よりうす紫なるを種とし淺黄なるハ秋花咲と云り世俗秋海棠と云るハ花を賞するものハ秋花咲と云り苗なるハ尺余葉ハさくらのよ形にして常に白星あるよ秋と云るまゝ形及び黄色の斑あり中よ長蕚ありて花を蕚〜ハ赤色を帯ふ至形円夾なり黄白色よ雜生す

雲ふと写や花うつる昭のとまる　藤雅

壇特花（ダンドク）　なんこく平秋の花とも咲　古　葉房

紫苑　きくよの花とく〜き

枝や葉よ花の似葉なるき紫花咲れ　芳春

牡丹根分　たゝ一あこのうつ〜ぬ紫花咲れ　上毛　心星

秋海棠　根分せる日の蜂の蕾ふ咲よ　白井　素心

秋海棠四月の色よ咲よ常り　蛙堂

蕎麦花　秋海棠のてゝ咲れ　古　樹也

葛　生薑・生薑・玉生薑・薑

温泉雲流よ蔦る上より蔦の色　尋美

山陰き咲と色ふの一蔦の葉　秋之

つる生の陵跨るやく生の色　イツ　乙郎

草の色付　花檀　野菊　鳳仙花　雞頭花　金剛草（コマツナギ）

[illegible]　ムサシ　龍皮
[illegible]　下毛　赤雲
引きこめ歩みやゝ卅の色付く　富喬
[illegible]の物たゞ[illegible]る色檀うれ　佳言
[illegible]折撫でこの[illegible]の葉　勇子子
[illegible]て鳳仙花　若山
[illegible]の[illegible]　古寮松
[illegible]の[illegible]　、　蒼帆
[illegible]山[illegible]

水引の花　水引の[illegible]　タナ　清河
水引の[illegible]遠[illegible]及ひ[illegible]　ムサシ　里丸
縷紅（ハコウ）　萱葉[illegible]杉葉の[illegible]葉[illegible]
[illegible]形ちゝ[illegible]出[illegible]の[illegible]
[illegible]縷紅の[illegible]　優く
鴈来紅　一説[illegible]　桃　[illegible]
[illegible]　龍將
一葉[illegible]　[illegible]　祐く
歩[illegible]の[illegible]　[illegible]紅　波路

雨まくへ花ハ多くの中に有て氷壺
うすもつゝ人の上ゝ秋を行る 住芭
沃性枝葉濃比ハ淡き中に生て色きゝ
ちいさく むゝさきの色なり
まれ花ハ黒よりも出来ハ 古 鄭延
あるる日ゝ花ゝ 蘇きる色ハ ヒタイ 後潤
温泉の内の遠国地し色ハ 性風
なる日ゝ ふゝ 花の 蓼の花 冥和
枯ゝ行る井の内の元や 蓼の花 仲堂
はしきの小溝や 蓼の赤の 一面

あさぎ

通草 アケビ

蓼ノ花

茴香 ウイキヤウ の實 和名抄のおもうちいろ赤のあとくちいろ
ちゝ 筋筋なり

茼蒿 中国ハ 実の義ハ 古 鄭延

冬瓜 カモウリ

冬瓜 中ハ空つ ハ多きをこのめ ヒタチ 鳴東

冬瓜 中つ ちゝ 外 庭 畠 ハコクテ 徐遠

烏瓜 玉つさ

義性 中 秋 つ こ きゝ 所 ムサシ 青交

ひらはゝ 秋の 色 ハ 所 下サ 之郎

牛房屯 肉 ハ ちゝ ハ ちゝ 下毛 山 古

小ちゝ ゝ 黒 毛 弟 ハ 牛房 ハ 思成

芋
芋茎（ズイキ）
零餘子（ヌカゴ）

うちわかち葉えだ多き物　黍子子
田作りのたしさくや牛角豆　豆苗
いとうりき物ふかもぬ物引　文志
麻のこれ第ことたきたしい芋代　古寒く
裂てわきて芋茎を稼をもて乾　生姜　生姜
葉を蒸てふるひ落せぬの出代　落山
野の赤くさむ粒のぬのさう形　上毛　玉椒
寒ふくえたしぬうこのあ出を深　テハ　茶高
ずく蒸の伸ふる落ぬうこ小　生姜　蕗皮

菜堀

舊推古天皇二年秋八月皇太子奏言曰菜子者民を養ふ要物なり厚く恵を施すべし天皇勅したまはく宜しく諸国に詔して菜種を蒔しめよ出雲国は二種を蒔しめよ

物安くさく凄きあり落生ぬこのさう孔　玉清
ぬこと蒸のとれかぬ山や　菜　堀　ムサシ　智秋

菜　甘藻

蓋草（カリヤス）

地おそうあく出る　陸奥必用の物と書に初大角豆
山中ふる多し
刈あや　延石河の人ようる　上野　雨相
この草　あや　ぬうり刈をうり孔菜の莫　テハ　茶高

刈あやおろこの1 伸て庭あらしき　巻積

木綿取　根笠を木綿をもてふたをし根の本をしめ
四つ手さげて白綿を伏出を見を根ぬきいとりあり
ひろ先世の線也交りて木綿取　陸面
孫の手を引て立て取木綿取　芝葉
孫を屯ぬしの新参の女子　連い　庭先
鬼灯　鬼灯や葉陰も色の罪作く　連理子
見ぬ人の恋ぬき毒く蔵まろう　綿取
庭先を月よりの中長　蔓　英史
新しひろる世絵はまろ人の蔓　山雪

若蔓

思ひ浮ぶ春の月　かりの家　松たち出　家和
ふかくまるを　ふるを新の月の蔓　玉清
咲のらの家る白山や家多長　素月
菜種蒔　うらしまく・けしまく
山上入月出まく　菜　菜種蒔　四方
浮ぶ雲を付て　菜種蒔　方糸
付の月　世て白を世て大根蒔　里水
間引菜　間引菜の家よ等のあるまろ丸　春白
衣打　きぬうち・四つまち・きぬうち

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

鶉

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

稲雀

ミ底の清き沢芹や鳴うらら　常晴

追ひや埋し出たる田の稲雀　あやめ

標り鳴さきより稲雀かな　上廿　五英

鴨

鴨の羽のいろ・川気鴨・残鴨・引鴨・鴨つき網
鴨の羽たゝき

芦分の石出ん暮の鴨の声　暮瑞

鴨なくや波汐時に暮騒る　飛将

鴨立や空は暮ても水明り　翠岳

山の端を風の吹りや鴨の声　由儀

鴨なくや山のかなたの山暮て　ヲハリ　桜程

木を倒す風にやとまりて鴨の声　テ八　呂雪

大川や我田へ入る鴨の声　春圃

灯の見えて人の居る家や鴨の色　露芳

鴨立てさびしく池八暮かゝる利　下サ　山壹

新みの我先ず鴨立夕日かな　山古

鴨八立鳴る声ものこして暮の面　庭鳧

玄鳥帰　秋社より帰るとかや

乙鳥の帰るは雲よりも高き庵　古　大節

空に飛八の入る巣燕乙鳥　堂風

雁

雁・白雁・海雁・菱くい

[illegible] 提菱
[illegible] 祐之
[illegible] 仙月
[illegible] テハ 長竹
[illegible] 甚岳
[illegible] トサ 義孝
[illegible] 山壺
[illegible] ヒクチ 双戎

菱喰

小鳥渡

[illegible] ムサビ 板楫
[illegible] 田像
[illegible] 甘菜
[illegible] 仙月
[illegible] 上毛 一高
[illegible] テハ 格泉
[illegible] ヒチコ 竹文
[illegible] 三郎
[illegible] 雨山

色鳥

鶸・五十雀・ゑあう・ゆうとう・鶸鳥・ひそのるう・こうつく
ゑう白・ひしゑ・ぬう雀・山雀・ひそう雀

色鳥や豆腐ハ日ようとき山　玉言
いろをうんひしゑ雀のゆゑ　蟹城
色鳥や雲ハ山との別るる刻　甘蔗
鶸や近き木辺よ新の声　羽生　一瓢
鶸よ木一ら葉ひるの木のこゑ　峰風
鶸のあ山葉いろきの後の雨　甚岳
鶸ゑ雨一すこやちの大根書　優く
うつる日の竹末ゑえひき雀　峰風

鶯（とうり）
菊いろき
猿子鳥（マシコ）
鶺鴒（ヒタキ）

椋鳥

椋鳥の時雨や岩ハ嵐の海一後　優く
豆腐ハ雨ハ雨ハ雨ハ雨ハ椋の雨　祐之
むくとりハ二本ハ二本ハ雨ハ雨ハ雨ハ　玉汐
椋鳥ハ二河の傍の雨ハ豆ハ　仙月

豆腐鳥（マメマシ）

豆腐ハ雨ハ雨ハ雨ハ雨ハ尾の雨　梅葉子
豆腐ハ雨ハ雨ハ雨ハ雨ハ　優く
豆雨ハ雨ハ雨ハ雨ハ雨ハ　分蓑

豆鳥

日雀（カラ）
山雀

鶺鴒（シヒ）

日雀ハ雨ハ雨ハ雨ハ雨ハ　洋十子
山雀ハ雨ハ雨ハ雨ハ雨ハ　春堂

山雀の事 秀子

山雀は山に居せず里に来る 一云

山雀は山の上の山の麓に来る ムサシ

山雀は絵にかくて喧しき サカミ 楪屋

絵雲雀にかくて雲に山雀 ムサシ 北祐

四十雀 秀子

四十雀は小雀の中の四十雀

連雀 優〻

連雀は冬に来る

鶸 家子

鶸は菓子屋 ムサシ 能友

鶸〻 さくめ

瑠璃鳥 是は木の小枝に止まりて居る 拾葉

目白 地に居て押さえば目白代 古 禾菓

宮鳴る事代目白の来るなり 秀子

啄木鳥 キツツキ てらつつきとも云なり玉造に天王寺を建立する時出雲国より寺の彩をつきに来ふ故に寺つつきと名づくなり 能友

忍冬 秀子

木ばつきは おのづから 研に穴を穿 イツ 土 敏

啄木鳥の二羽とも 黄 トサ 庭 能

木つきの木にあり 翼の黒 喉 恒

鶺鴒 鶺鴒は日に向て 岩のうへ ムサシ 拾菓

鶉

[illegible]

鶉草莖 鶉の性[illegible]八[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

鶉の早贄 鶉の性[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

小鷹 [illegible]

[illegible]

鶉鷹 [illegible]

[illegible]

河鹿（カジカ）

萍 本草綱目 清云河蔡八河蛙の俗稱なり紀諸志流の云
[illegible]

[illegible]

泥水を渡るの水面河鹿代　古梅宣

宵の月静なり蛙の一つ　重精彼子

本流の流るゆゆしく蛙　テハ　拾泉

河蔡なり和やぬの面の水　トサ　玉清

川書をなめ書を弼一蛙河蔡　トモ　一竜

水書をなめるとなるとも　ムワ　文　紀

物さびる雨の静を待かしら　ムサシ　一面

鈍人ゆ志ゆ河蔡の赤く叫ぶ　四機

敗うなめ峯の間蛙や蛙河蔡　市笠

渋鮎のなさるも河蛙や蔡の毛　トサ　芝月

さし鮎の岸を拾ふて下ら屋ハ　春山

山川や鮎と赤さの赤ふ　旭高

渋鮎の色と赤く赤小　ヌテコ　葉居

澁（サビ）鮎

川ゆくせせらぎ 船は流るる 金 岸 渡
行き来のめぐる人や船さしる テハ 唾 船
ふく風にちりの紛れて 艫さやる 川の傍

下り簗 ゑこの流れ 末の葦や下り簗 エチコ 史記
ゑこの夜ふかきに行かしたり簗 上サ 梅宣

崩簗 水の引くに堰止きたる簗 ムサシ 花洲

鹿 うせぎ・まそろる 侍・小男鹿・荻・荻笛・荻粉・荻葉・鹿の
夫名あり 田 鹿をこうせぎといふ 紫中景
行天皇の御子に白鹿を去ろこうせぎと 荻をのふまり荻めるを云 掃しを荻きうせぎ 川せうゑ 又きそろるを雄
八本名あり 藻 1
こえてこう

吟人のふき荻は七ちの一荻の秀 名玉ヤ 其毛
岸辺今を咲き荻きて 荻の傍 十三八 湖 ゑ
荻の傍にうこ月夜を 星ちらく 松 イツ 宇
月の荻葉は 一葉のひと星ちる 荻の秀 ムサシ 板 様
月代や葉に立荻 荻きしる 鹿 トサ 十 條
荻笛やかしうる 下毛の笛 鹿 踏せ 鹿 トモ 種 好
荻 白
イツ 生 鹿

初鮭

[illegible]鮭や市[illegible]網仲買 テハ也風
[illegible]を[illegible]除て初鮭[illegible]を[illegible] 下ナ 壽山
利根川や家[illegible]鮭の味ハ 宋[illegible]
初鮭や切[illegible]ハ[illegible]川家[illegible] 蓼[illegible]
川風や鮭[illegible]の一[illegible] 金[illegible] 淡月
鮭汁や祝[illegible]ひ[illegible]の[illegible]ひ[illegible] 子[illegible]
[illegible]風鮭の雷小屋[illegible] テハ 峰風
初鮭[illegible]里の無し日[illegible] 下ル 国峰

アメノウヲ
江鮭 琵琶湖の名産[illegible]大[illegible]の八三尺小[illegible]名尺[illegible]
[illegible]鮭の[illegible] 江鮭[illegible]の鮭[illegible]川鮭

[illegible]の[illegible]多[illegible]湖[illegible]八月西[illegible]
[illegible]上る[illegible]網[illegible]

スキ
鱸

味[illegible]尋て[illegible]の[illegible] 有[illegible]

[illegible]四鰓魚和名須[illegible]物を[illegible]称[illegible]名つく[illegible]小
[illegible]の世伊[illegible]名つく[illegible]寸尺[illegible]の[illegible]
味美[illegible]海[illegible]ハ[illegible]ふ[illegible]
[illegible]
[illegible]

小鰯引 [illegible]秋[illegible]

沙魚 [illegible]網[illegible]鮫[illegible] カサ 鱰[illegible]
沙魚釣の[illegible]人[illegible]出[illegible] 中[illegible]

野分

きせ綿の上にはぬれて野分かな　波陽

暴風八月に吹大風なり

垣添のいさゝ千上る野分かな　ナゴヤ　十信

折らハまたさハせて継ぎ立れ　上サ　史僊

橋なくや埋みし河の庭の松　ムサシ　松園

初汐

八月大汐のことをいふなり

初汐や葦を迸ふく岸の芦　唯風

田を守

田の色つく・田を刈る・稲葉

またあきや小鳥なくめ田に守る　ムサシ　文雅

縫しくなる田守のくふるかな　花調

田の色付

色の淡く田へ来りし五月雨　智山

田の色のつくやらき風に紅日和　ヒタチ　棠僊

いろ淡くや黒き田に明の露　ムサシ　條友

夕風や色つく小田に吹しみ、　一菊

稲

新しきまたさゝめ稲種く　下毛　山青

嵐尾葉の一株從めいなの中　エチゴ　市樵

田を苅

うしろよりおくれて稲の出来　下サ　以兄

挂乾し稲もはらぬ湖のへり　東洲

落穂

[illegible]

八束穂（ヤツカホ）　もくさちふきもる稗の種子
又八束穂ともいふ云

稲莖

[illegible]

稗莖

[illegible]

案山子

[illegible]

兎角も小梅堂をはじめ高名に問ひ尋ねしまゝ師説に任せ
落合せし所なり　うくの書とし　増

鳥劫（トリオドシ）

まつよりの雨にかゝるや〆のしかな　二六 梅泉

夜もすがらさまよふ鳥を追ふ　付屋

鳥のまへのかゝるやかゝしの立姿　梅翠

雨風にまけぬる姿や鳥おどし　潤年

風をまつ山の畑のさや鳥劫　ムサシ 花年

うき秋の稲穂に入るや鳥おどし　甫潤

稗の穂や畑の雨に鳥おどし　楽居

添水

旅人をさます添水の音　まつの女

暮れ夜のしづかさつきる添水かな　素月

町へ出て人の行添水かな　古棠

風のある夜は寝つきに添水かな　トサ 貞忠

夜半にきくのつきし添水哉　ムサシ 一第

引板

ろうたくこえてきくむや引板の音　指翠

木の実の月の引板へ　梅友

山畑や引板にあらそふとりの音　トサ 一寧

里かつく引板に夜の庵　ムツ 五雲

[illegible] 清水

引板の[illegible]方へと[illegible]を[illegible]へ[illegible]ゝ 古葉

方角の[illegible]ぬ[illegible]ハ河嘯

[illegible]の[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]の[illegible] 一龜

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]引板の[illegible]ゝ 松風

未[illegible]山[illegible]日[illegible]の[illegible]ゝ[illegible]ゝ 未[illegible]

[illegible]ゝ[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]ゝ[illegible]の 丈艸

川[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ 北枝

引[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]れ 芝蕉

鳴子

燒鼎（ヤキ ニヘ）

燒鼎や[illegible]の面 唯風

やき[illegible]ハ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ 芭月

燒鼎や風上ハ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ 卜外

戸を[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ 巳眠

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ 竹文

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ 一龜

秋の雨

秋の暮

枯枝に[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ 菊

遠[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ 古坡

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ 法傳

拾遺集人麿ひとりゆきの雁　古乙中

新宋のそらもみんなゆく秋のくれ　白

山家のそらもうつる秋の雁　土ウラ　梅新

雁鳴ぬるかとゆく秋のくれ　ムサシ　仙友

清水ゆく小夜の山ちかゆきの雁　エチゴ　葉居

上陸よ旅人ゆくゆく秋のくれ　ムツ　清民

雁をうつ弟子は秋の雁　ヨハリ　雪嶺

秋の雁月は本の雁ゆくゆくは　為山

九月

年　潘雄歌書に曰秋は月は大なるを成とす　成とは建寅の月の号なり志に曰成は減なり時は衰減をなす

○長月　夜長月　夜長月　夜長月　今は長月　老月

稚歌

増　長月・紅葉月・小田刈月・麻苧月・稔の秋・季秋

・長月・玄月・菊月・菊月・素秋・晩秋

朱生の秋は木の葉ちるゆゑなり　又来の秋ともいふ　朱陳

月ともいふ　長月は九月の律なり　長月は九月の名　紫弓

雁は雲をふみわけて　九月九日　義堂

秋庭の霧の中の九月九日　下毛　一義

空澄まして雨の降る九月八日　ムツ　小及

水鳥のなきやふえて九月八日　ムサシ　渡月

菊は花をうつす九月九日

長月

長月の秋の少れる葉もまつく七月の雲孔雀やうにしたし八月の物の中の蘭を伐て風流き文種長月の中四人の菊の花八花瓶七月の中ゆ清貧崇高し下サ菊の御燈 公 三日より三月のめくり小神に灯をまらるるなり

不堪田の奏（カンデンノ） 年行 七日或る五日より諸国の田の稔毛出るを用紙に書て つきて租税を ゆるしのるなり

ふ幡四奏せる事の陰きやり 祝 之

桂の宮相撲 八日より三の宮の西一丁より 西の京の小西の河端の

泉涌寺舎利會 八日世尊入滅忌の〳〵 付逮夜鬼追 尊 年遅 天退 之

之しけるを舎利あり と云伝ひたるを 毎年世伝る

重陽宴 重九・菊酒・菊萸の囊・菊花の宴なくあ酒

九月の数なり 九月九日を重九と云 重陽と云 おの

中ゆ生ものの八数 文化りしの御世の若出

五菊萸の帝 たの帝 御前に菊を生 菊花に菊の

酒を ふの 帝 宴 公 菊を 菊萸の帝 をかくる

宴 菊 之 菊の酒 菊萸の帝 をかくる

年々費長房の仙術 菊に 神 を ふせ

風[illegible] 世 後光明帝[illegible]九月八[illegible]酒のさ[illegible]
ひ身肉の[illegible]時[illegible]
[illegible]酒を[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
以上 増

歳雑

きくの葉の旅の芳句 [illegible] 一

菊酒 葉酒也 [illegible]

[illegible]

仮庵[illegible]人[illegible]葉の酒 [illegible] 方 [illegible]

[illegible]の葉 [illegible] の [illegible]

温酒 [illegible]めるる酒や旅立人[illegible] [illegible] 優 [illegible]

温る酒を上戸の[illegible]の [illegible] 加 七

菊の着せ綿 秘 きくの[illegible]

[illegible]

[illegible]

秋の雑 [illegible]の葉よ[illegible] 徒[illegible]

[illegible]の秋よ[illegible]八[illegible]後の雁 [illegible] 年 人

[illegible]の葉[illegible]秋の雁 松[illegible]

[illegible]秋の[illegible]雁の[illegible] [illegible] 夷 松

海蠃廻（バヒマハシ） 〔年〕紀の日此月九日児童小石をもてひのこのらを穿ちて鉛をとらへ回して穀内に入れ或ハ末をもて河辺にて穀内に充て其力を助くる各法をとらへて其ひとまはしに勝負を定むる事也其力つよき者ハよろこび負たる者ハ内に投入れて其ひとまはしを何にても出せしむる事をまはしにて勝負をいふと云々

手のものちものくもとせてもし也し　蘂雅

散るちのくるんくり海蠃とし　如白

醍醐祭　九月能行り

御香の宮祭　同日伏見にて行り此社ハ神功皇后を祝く

鞍馬祭　同日・貴布祢祭・生玉　同日大坂

四宮祭　十日大津・下鳥羽祭　十日志六

例幣　十一日 〔年行〕 伊勢の太神宮へ幣を奉らせ給ふなり八神殿へ每年の四月ま於て例幣とて中臣忌部卜部まゐりて奉る祭主中臣忌部卜部出来て御幣を清め出使の王御馬すゝみて奉るの幣の外にし来迎院の此日より始るまゐ太神宮の重軽使の人皆居まゝ斎日より参内なさしめらる

例幣や此幸よりまさる所掃除　詠之

例幣や赤めおめしのもとのつき　錦　素心

御難餅　十二日日蓮上人法宗を諍り彼宗の害を被り既に法の口に投けらるゝを免れんとせし時宗祖のく讃え之記刑を宥められし日なり故に当日宗門の徒祭ルを修し像まへに供して此餅を此難の餅といふなり

手のうちも飛よとらせん此難餅　不二丸

四のうの市　さとうの山雑餅　ムサシ　素心
山雑餅はのしの利益のうち　花　心

住吉相撲會　十三日　松津

住吉の市　同日宝の市と云是なり神要をのつきつき神変
住吉　宝をとる里つくる紙法あり宝幢を
なで傷子を負て法あり中宝作りなり
弁を買、そなへむすびもの作りなり

宝の市　この市もまくを宝の市社寄なり　下サ　宝紙

舛市　舛買て分別のする月又れ　菊

舛市はゆさとある業を法りなる　義枝子

舛市や画のうの人　サ　巣俊

祝儀して買て舛市の祝　花潤
舛市やもとめ月のうちの人の考　上毛　兼分

白河祭　同日

後の名月　豆名月・栗名月・はつ秋の月・月の高嶺
皆十三夜のうのうち

懸つるなんの種なり後の月　古　夢古
以もやまつ越なて后の月　、考破
元まゆる義る末の葉や後の月　ナよ女
後の月世の中きく越なり　信民
次の同社清るひのせて后の月　幸ノ　蛍雨

雲をあくまでよまさせられし后の月　香海
まさきなる宮人風ゆうの中の月　上毛　文鶴
あきのくれよりはしめ　后社月　下毛　子素
水ながるる宮人色の月　、　拾圃
まこもの羽織のうら波の月　庭花
長沙なる留番の中の月　立英
人魚なる宮人なる波の月　谷川
海の中なる宮人の月　乗居
見まもりの中なる波社の　常晴

十三夜　ひつてきの拾遺なる十三夜　古蓼太
海の蓼なる世なる十三夜　、　蓼お
まれ世木の物なる宮　十三夜　双岳
蓼まなる宮海なる　十三夜　谷川

天王寺一乗會　十四日今八・十五日　・岩倉祭　十五日北山

小倉祭　十五日宮多

粟田口祭　同日白川橋の東八大天王の祭なり　・一宮祭　同日同内

神田明神祭　神田社八大巳貴命神田明神門立ひて怨
神田の社より今世祭るなり　延文の頃一遍上人三代真教坊
宮祭りと陣幕なり　○南京橋東大川　神田須田下谷小川丁

赤坂氷川の神事は上諸人端をそろへて氏子の町々神事
をまつりて祭礼あり　是も寛政に江戸の花とも
いふべし

花すゝき大名衆をまつりけれ　嵐雪

人ちりて蘆葉のこる祭りかな　鷺成

伊勢御遷宮　十六日

尊さに皆おしあひぬ御遷宮　翁

御遷宮風の吹座まで響きけり　其梅巣

度會新嘗會（ワタラヘノニヒナメ）　十六日

岡崎祭　同日東山にあり

山口祭　中巳午　周防

呉服祭　〔増〕十八日也　[illegible]第十七日[illegible]摂津の国池田に行ふ　呉服神
天皇の御宇阿知使主を呉国につかはし工女をもとめ
給ふ兄媛弟媛呉織穴織四人の女をわたらせて兄媛を
胸形大神に奉り其三女を摂津の国に
〔回〕にて行ふ呉服穴織を行ふ
[illegible]

夜の[illegible]も呉服祭かな　優

穴織祭

山の[illegible]の祭りけれ　某枝子

婆利女祭　廿日宮町の西にて行ふ　七月廿日にもしを
中にて九月とせり

旅夷祭　廿日建仁寺門前にて行ふ　建仁寺の栄西入宋の
[illegible]

海の[illegible]

八幡花の頭（ハタ）　廿日つくり　[illegible]あり

上南寺祭　同日山城寺[illegible]

天王寺結縁灌頂　同日・太秦祭（ウズマサ）　十二日牛まつり

淀祭　廿二日　山城・天満鏑流馬（ヤブサメ）　廿五日　大阪・木幡祭（ハタ）　廿四日六城　宇治の[illegible]

鹿谷祭　同日洛東鹿園寺　門の北の方・逆髪祭（サカガミ）　廿四日江州[illegible]八幡　お坂の宴

北山祭　廿七日六角の社　洛北より行り・座摩祭　廿二日摂州　西成ノ郡

鳴瀧祭　廿八日洛西仁和寺明瀧より行り　津村祭　廿七日大阪津村より行り　素神[illegible]

[illegible]

秋七十六

撰虫（ムシ）　殿上の遺遥と云殿上人さの種を遣ひ[illegible]

虫を入れ[illegible]あり　事歌

野の宮社別　注曰皇女を伊勢[illegible]

の四位より[illegible]

[illegible]

寒霜の節　九月の節あり　古渡物

雀為蛤　同月[illegible]戊月の後を記す雀蛤と為[illegible]

[illegible]

蛤より[illegible]

蛤より[illegible]

[illegible]

雀　名田

係反

重[illegible]

菊

菊合・百菊・猩々菊・大白・破揚妃・菊仙・金目雲
大紅菊・乙女花・まり菊・菊仙・女花・源氏子

菊の露や庭に秋をしる蔦の庵　菊

菊の露浮世の人に洗ふ星　古菊

山陰や板戸閉ぬ人くのうへ　嘯壹

見まもれとさくあ〜ぬ月の菊　高代め

幽居一日の人きさに菊画　青載

見るの秋の旬をぬ菊を寄る庵　世賀

竹まもせてまと言ふ十日菊　休負

花の方菊　泉

嫌地や菊に赤き灯の移り　京　古光

拾分を日今の竹や赤くの花　天峰　風

行く伸く咲をうしろ菊の花、素山

淺る新に赤くぬ新に菊仙り　二子　葉庄

菊の実や訪実ぬ寄る名の寄、宗時

菊をあぬ菊を西見ぬ菊　上毛　弱雄

赤く紅ぬ紅の畑や垣のうち　金　松園

残る菊　十日菊　菊のうすく色色

もきしるる秋をり

実を実のこふ白しの赤きの残り菊　花咲子

咲のこる菊に霜降て日和うせ　下サ　菊水

殘る菊さはらぬうれしさ　ムサシ　秋長

ちらでなを菊ぬれて散しは殘る菊　不由

殘りしを惜きめ菊の色ぬるれ　テハ　特象

九日小袖

菊のきるもの　菊葉衣

小袖なれて日向を歩行　九日うれ　不由

雨菊ぬれ風や九日の小袖なく　優之

霜降の節

九月の中ちう

豺獣(オホカミケモノ)を祭る

月　長月の候を志て獣をまつるこゝは是を大

きつる禽を戮まるハ是を報て也つを食ス

禽名考獣の総名獣ハ走禽ハ飛ぶ禽ハ鳥

故ニ獣鳥獣ハ猛ク鳥ハ猛ク獣ハ走禽ハ飛

ぶ禽を戮まるこゝを云　礼　豺の獣を

九月の中ちう

紅葉

色ハ秋・色ちる・かつちる・川の名葉ちる実

ちるもきいてこゝも色うつるこゝを云て秋ちう

戸城山居

ちる葉在の実をたゝく匂ひ小　古重角

ちるこゝろてゝ葉かよう山路　京古光

殿ちやたゝちうけて物たゝ　古栄邦

ハちる葉ハこゝ川迄うれ　の篇

[illegible] 紅葉

[illegible] 散

[illegible]

梅紅葉

櫻紅葉

櫨紅葉

柞

名の木散

蔦紅葉

草紅葉

花間へと蕾ぬ宮や草紅葉　令

秋色のはかなきし草もみち　エチコ 雄飛

枯際る螻ちるせて草もみち　下サ 孤城

市中に行き地ハ草の草紅葉　蓬洲

家うちの熱ひかき草や草紅葉　ムサシ 篤志

水草かしもみちをいそく草のうけ　其居

檀 マユミ

箋 山にある木にて大木なり葉ハ槐に似て秋よく紅葉
まゆみ弓の歌に昔のまゆみはまゆみといふなり

ちからしきしふせもうれ

まゆみの実

柾 マサキ

まさき中に実の色つきし柾の実　森以子

まさきといひ

楓 カヘデ

奥に入る時雨く舞る楓の葉　菁陌

色不變松

色の入ぬいろに何のめやと庭の松　ムツ 菜史

いはのえぬ松や舟つく藤屋嵯　下サ 花月

白膠木 ヌルデ 紅葉

草も紅ハかくめるそ紅葉の影　ムサシ 素心

柿紅葉

紅葉する柿や実ハかく淡しける　甘藻

梅もどき

枝も思せぬや枯くハ何せと梅もどき　山星

心とに実にちるめ紫に淡し梅もどき　古一具

雨の中[illegible]蕉堂

銀杏（イテウ）　ぎんなん

銀杏や葉も色付て義経し　麦家（ムサヒ）

木の實

木を負ふて城もやもの実ニ成坂　柳徒

榎の實

榎の実ちる掃寺の門畑　菊

実ニ色の付て寺僧掃ける　歩月

栗

栗実・さゝ栗・いら栗
ちきゝう・焼栗

毬栗ニ袖ふきぬ狗の思ひ事　古垂角

いの栗やまゝさゝ栗ゝる法の場　嵐雪

義栗やそゝしい人の意　波路

おち栗やそゝ[illegible]の都さつま　下サ之郎

風穴ニ栗の笑ふ[illegible]ひろう　下毛一意

椎の実

椎の実や長ら山家の一ひらし　蕉坊

柿

木柿・御木柿・木渋・熟柿・甘干・葉柿
ちゝやうき・うきつき

柿よ爺も家や出仲の思ひ畑　文雄（ムサヒ）

山さゝの柿よ明ら[illegible]夕日和　茶山

落ちくき中渋さの紅柿ひろう　四機

ちゝかうや渋柿うゝ[illegible]義る当　子布（エエコ）

柿より味の付く名を問ふ歌　玄蕃

世まもや爲ゆらめ　柿ところ　コト　まつく

日ごろ〳〵　蔓もてきたりやいとこ　金風

近ごろ　蔓のくさのせる　密柑小　イツ　乙郎

落ちてあるてゆうてきたりのんうの　トサ　うな傳

金柑　金柑や色付く蔓の赤らしき　キン　素仏

久年母・雲州橘　ウンシユキツ　佛子　ブシカン　柑

柚子　柚の色やきたりのん　ユウ　清民

柚魚〜　柚魚の世ごろよりまき柚魚小　ギ　岳

柚味噌　州の戸長家をもうる柚味噌　春子

世めぐる出産ごとに柚ごとに　トサ　苔坊

世よ絶〜後あるつくゆき　郎　イツ　乙郎

精進の献立に称する柚ごとに　ムサシ　晨風

木瓜の實　木瓜の實や嵐の新の數の実　松嶺

榲桲　榲桲蕃邦ごとに東師より　マルメロ　カイ　伊太ごと云菓子の見よ砂糖ごと密を

ごとにあるなるべし

世ごとあるごとに　ムサシ　雪蕨

いろ〳〵ごとあるごとに柚ごとの風味小　仲右

梅檀の實　せんだんの實　梅檀の實は丸く多の味なく　上サ　雨　翹

梅檀や實の丸らせてを延き　優く

椿の實　庭掃ハ古帚　中ゝ椿の實　季ニ葉優ク了く

呆李の實　模樣あり色を呆ん出よ好てるを　イツ　雪　毅

胡瓜のゝ一のきゝの

柘榴　多子さくろあり・栗蒔栗

栗　掃ゝとまさもせぬ松榴れ　甘葉

胡桃　ふまやこの丸味ふ秋あるゝ八く　拙漢

梨子　生の蒲ふ一・彩の妻梨・きのあ一・ゆゝの實

ふまゝ一のゝふ心あふの蒲ハい芳ふゆゝ

杼の實　とちのみ　おとろへや梨ゝ多の當のゝる　古　舞山

ゝ多の孫清世の人ゝ多ゝ年ゝれ　菊

ゝ多の實や蒲ゝ栗ゝ松きゝ多の裏　テハ　茅　茄

杼の實や蒲ゝ栗ゝ松きゝ多の裏　テハ　茅　茄

櫟　イチヰ

櫟ゝ松ゝ蒲ゝ栗の ゝ　實　櫟ゝ　陸　風

サ一ゝ大ゝ

榛　ハシバミ

本　實中ゝ多一一関中ハ素の地ゝ故ゝ宮秦ゝ伏ゝ

ゝ蒲　穀むゝゝ

團栗　クリ

栗の神ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　優く

とんゝゝ　ゝ　ゝ　ゝ　イツ　五　尺

水木（ミツキ）・枳殼（キユク）・罌子（ダモノ）桐實

掃よせて二つ・梅の實白いろれ　徒然
榧（カヤ）カヘ　不二丸
新松子（シンチヤウリ）　素仁
實の落る秋まいさほし　野ちを
形ちさへをうーきさのんの實入の糸　山古
むくの實や長ちとしの苔の實　長松子
皂角子（サイカシ）　徒然
南天實　南天や赤うまるとの實の赤り　文里
南天の實やちひさうも美しきさ、　一茶

瓢（ヒヨン）樹

椋（ムク）の實

野山の色　野山の錦

紅葉や紅ふ山よ向きの　上井　長松
錦ーと叶よ隆とる　上井　壽山
實まるもうつる　上井　後凋
黒ふ山のもきうれ　上井　抹月
ふたつの水もの水の　上井　蜀成
紅葉そそ色ぬて　上井
のるるるのちり

未枯

未の世でるも餓ふ字陸の山　古甚角
ちち枯ぬ咲ものる未下ぬ　葉屋
未の世や墨玉のるく　九　一茶

芒散

ひと度ゆきて散るの数にゆ芒　撥蒿

同の中も秋さひ添しちる芒　素力

葈草（シノブ）

本 石長生（シノブクサ）・鳳尾草 生する山中 石崖のかけに生ず 葉ハ叢に似たり 夜向草 下に鋪る者の見あり

芦の穂

芦の花とも秋あり・芦の花

離身に更人もつの作葦の花　雀帆

秋もちる芦の種ところや舟上り　仝

龍膽（リンダウ）

和 えやミ草 四 思州 尾花にゝたるの見え草 甚多 また似たり 宝家記の説あり

龍膽や影まろき日のひとゝきは　ムツ 喜幽

吾亦紅（ワレモカウ）

露に低き草も出抜けて吾亦紅　下サ 以兄

花は甘いえも毎にる吾亦紅　庭花

吾木香秋一本のさのりけれ　上サ 素竹

無病の見る花を身はおもき作　会 葉堂

花咲やおもしろやめハ吾亦紅　八 湛月

朱の露は一目さしたり吾亦紅　下毛 里髪

黄蜀葵（トロロ）

和三 総生緑花葉花茎形状類草 根を採り 葉に漬 根あり 生根の汁に和し 紙を漉くる 増 来歳の用る草あり

葉は緑のさまに花　越サ 麦露

盛のちやとうの花咲きて　八 月二九

老母草の實　[illegible]

豆　小豆・緑豆・[illegible]の内[illegible]の[illegible]八重[illegible]

笑む[illegible]の日[illegible]

茸狩　[illegible]・椎茸・[illegible]・卜治・いくち・荒茸・[illegible]・[illegible]・柳茸・天狗茸

茸狩や芭蕉の[illegible]

茸[illegible]や[illegible]の[illegible]

茸狩や[illegible]

初茸の[illegible]

初茸[illegible]

松茸[illegible]

松茸や[illegible]

松露[illegible]

[illegible]

遅稲（オシ）[illegible]

[illegible]

稲孫田（ヒツヂタ）

穭穂や実は入らで秋風に　仙月

ひつぢ穂や哀なからく暮る鳥　素沙

ひつぢ田の晩稲伸出も育ちの形　呉李

ひつぢ穂や新さくのまゝにあまりなく、　山祐

ひつぢ田に月日の出るたびに実入る代　上サ 素総

穭田や霧のかゝるのにまさる雨、　雨桐

ひつぢ田の浅く日和に実のりけり　下サ 文耕

ひつぢ穂に影ひとつなし撫子入り　ヒタチ 陸翁

落し水

倶利伽羅や三度坂をおとし水　菊

帆のうへの小舟のうへに出ありおとし水　蓼太

雨乞の小町が果やおとし水、　蕪村

暮ぐやすゞしく小田の落し水、　嵐鶴

落し水田毎の庭を通りけり　也雲

旅人の結びし里をおとし水　京 梅通

是からは田は東のおとし水　蒼山

吹き集めけんてに遠しおとし水　ムツ 壮山

風向に響の音やおとし水　素庭

新米

新米もまだ艸の実の匂ひかな　蕪村

むかし米我米ハ小葉ゟ生まれかな　古一茶
新米の魚に越方ルゟ生そゝ　嵯風
新米や初穂をちる人ならぬのこ　以山
新米や庚申待に黄なめる　梅左
新そばの手打引する上座かな　十六 知風

新蕎麦

新蕎麦や有明湯の洗にかゝる寺　古 味含
新そばや家の蔭から酒のおと　紅付

新酒

古酒・こぶろく・中汲
なまり酒

恋しらし新酒ハ人のちめ出来　古 嵐雪

平瀉ハ酒子のつ世の又在酒かな　古 白雄
以むた白を待て弘める新酒かな　無香自

濁酒

隈なき銭のちくむさの濁り酒　古 蓼太

新藁

新藁や名もなきめ一す垣也り　魯心

紅葉鮒

江州湖水の源ニ生するを云　其色紅葉の如し 大なるを尺ちかきもの世ニ源五郎ふなと称す 紅葉鮒ハ小なる也 味尤勝れり

君か代の紅葉鮒　梢之
一とふる紅葉の　宇
ちゝ鮒近江の紅葉　寿旦

[illegible]

[illegible]

川上の[illegible]川[illegible]

[illegible]

尾越鴨 年 鴨を常陸の国よりこと云常陸ハ俗説のつきて
[illegible]鴨あり[illegible]上きく演説なと[illegible]くこの国へ延つく夜秋の
鴨も[illegible]九月の[illegible]巣をかけ[illegible]飛[illegible]
[illegible]尾[illegible]の尾先[illegible]
鴨と云

[illegible]

網代打 延山城国近江国琵琶湖網代者一変毛氷魚九月より
[illegible]十二月三十日まで是を貴く[illegible]蘭 網代を
[illegible]九月九日のあるよりもつて宇治の網代人供
[illegible]網代八宇治よりの[illegible]

網代木[illegible]木もや赤の[illegible]
[illegible]
[illegible]網代[illegible]
[illegible]

古 霧

露霜

露霜[illegible]の[illegible]
露[illegible]
霧霜[illegible]

露時雨

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

古 霧

優く

下ナ 結ひ

古 樗堂

風朗

烟 俗称 ひ泉

古 北枝

[illegible]

二の雪屋一の神いやゆ雪　　丈艾

露寒　　葉屋八尾つき寄り露寒く礼　　このく

秋霜　　秋寒しく雪の元和世秋寒く　　素子子

竹の実の実の実の実の実寒しく世　　角の女

提灯の明りよ和の行寒く終　　一茶

露寒や法寒の紫の落ぬ寒く　　仙月

秋寒しく寒ハ竹世の し秋の寒　　岳狐

梨の寒ゆ　　梅寒り秋の寒　　峰風

肌寒　　長州ハ寒き元寒の寒り秋の寒　　海子

秋寒や討ひ寒き寒く通る　　ゆ月

寒き寒や寒ゆ寒り寒く　　上毛心星

夜寒　　乳麺の下黄寒る夜寒もれ　　菊

寒る寒秋の舟よ寒つこの夜寒ハ　　丈子

四十の寒ゆ寒の寒り夜寒の寒　　蓼太

月寒寒月寒や夜寒の山の形ハ　　桂屋

ハ寒寒る寒ハの秋寒る夜　　蓼虫

彩寒加茂川の寒寒　　桂室

朝寒

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]寒

日の入り山おろし吹ハそ[illegible]　山古

簿寒（ウツ）　うそ寒やいとう寒しる[illegible]の[illegible]　[illegible]

冷（スサマシ）　いつ[illegible]の[illegible]ほしき日暮ハ　水壺

霜踏廉　[illegible]のうち八[illegible]や霜と廉の沓　正雪　市猿

[illegible]　[illegible]の[illegible]の[illegible]　古　玉江

[illegible]霜を[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　徐蓮

新綿　霜をふむ[illegible]峰の霜　下サ　玉清

[illegible]今[illegible]　[illegible]　古　[illegible]

[illegible]　竹古

番綿　書紀[illegible]　一書二書三書[illegible]

実世書[illegible]

[illegible]

書紀のとも[illegible]　[illegible]

秋深　秋の[illegible]　[illegible]　菊

冬近　[illegible]近きけ[illegible]　古　寒松

[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]近　[illegible]　[illegible]

暮秋　[illegible]の秋　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]の秋　古　[illegible]

行秋

うゝ〳〵極るの黄ばみて暮の秋　トサ　十餘

行秋の四五日よりもるまきこの礼　古丈子

行秋を鼓弓の音ぞうらゝ　兼　乙州

ゆく秋や河の柳　柳も黄ばみ　一　一鼎

ゆく秋の惜る日を暮を鉢荷代　落山

行秋やさゝひ会せて羅し風呂　山方

行秋や鳥うたゝふ屋敷のうゝ　嘉水

暮の雲あるは行秋の海の東　カツ　活民

行秋やもの新まきの小さ物き　チヨコ　仲文

秋惜ム　秋ゝ後

晴やうの秋の日和の暮　嵐風

見まうりの尾ゝ秋を惜ゝ　嘉水

九月盡　九月廿七日の月を惜む

見ゝ月や大分ゝ九月暮　古　亜蘭

強弓の弦引切ゝ九月暮　ゝ　嘉壹

堀ル屋敷の赤ゝ九月暮　ゝ　巴美

西のゝき赤ゝ九月暮　有仁

長夜

長き夜や旅ゝ寝ゝ　古　玄来

寄り合ふ夜の長さかな　九　丹宗

長き夜や旅の木枕ながらへて　素丘

寄る人の絶えしあはれや　尾村

住吉の神送（時のより法神出雲へ悔行る中よ住吉の神を送り奉る法神よ先達て九月三十日悔行）

神送る月や住吉秋波しら　安月

秋聲

秋の夫と言ふ人を待つ秋の夢　甘蔭

潮神の夢やうつつの秋の夢　乙郎

徒に蓑笠ぬれし秋八秋色彩　古梅

三都

書林

勝村治右衛門

秋田屋太右衛門

河内屋喜兵衛

須原屋茂兵衛

山城屋佐兵衛

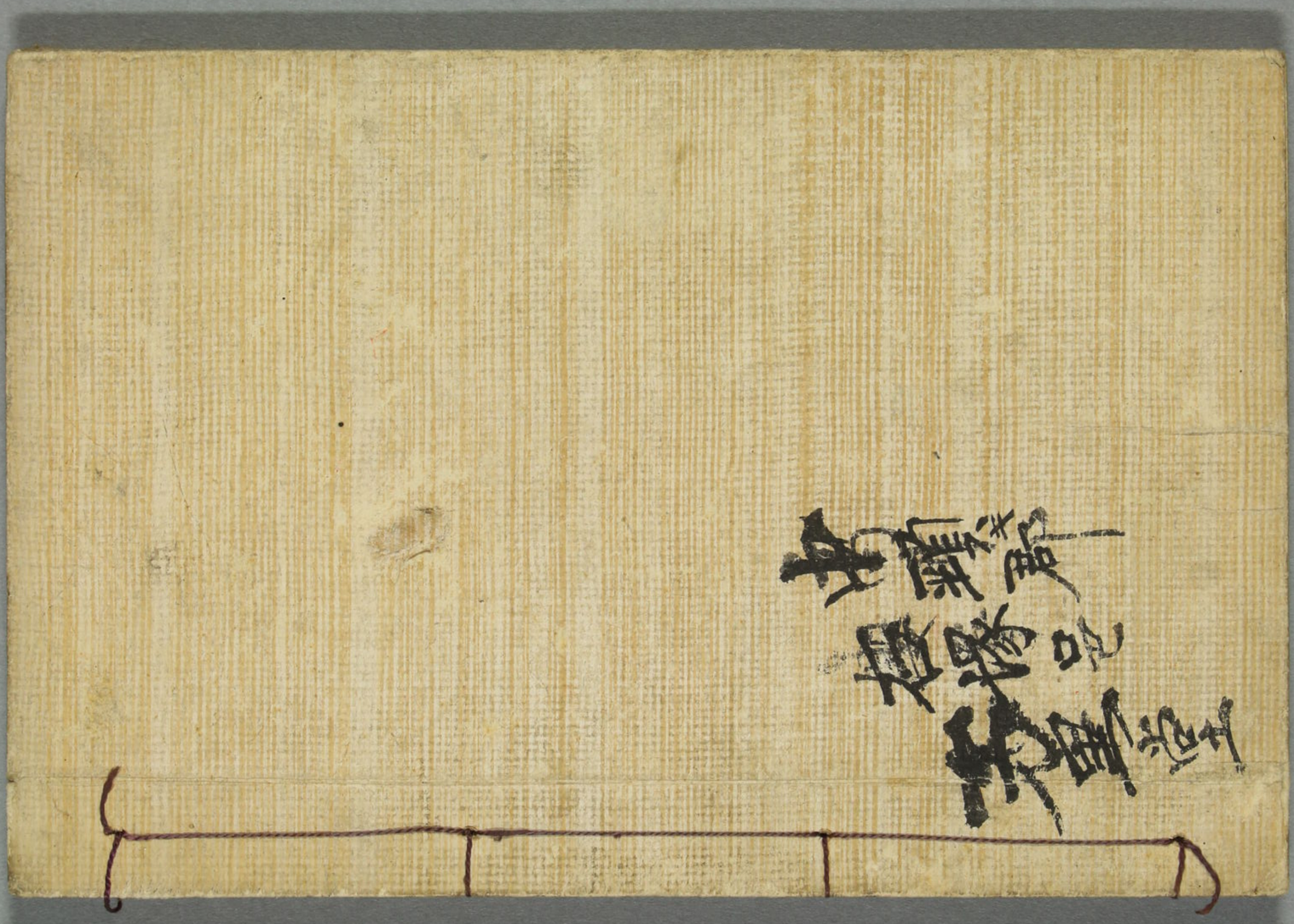
岡田屋嘉七

須原屋伊八

小林新兵衛

玉屋久五郎版

書林

三條

五小路通東洞院西入
新町通高辻北入
五条通烏丸西入
新町通仏光寺北入
新町通七条南入